

# 土の館友の会

土の博物館「土の館」



初めて乗るトラクターに生徒たちは興味津々。指導する会員にも笑顔が広がる(写真右) 蓄音機から流れる懐かしい昭和歌謡に聞き入る参加者たち。大好評に終わったSPレコード音楽会には再開催の要望が多い(写真下)



## ふるさとの宝を大切に。 愛郷の思いが、今ひとつに。

### この町を、農業をもっと知ってほしいから

農業のまち・上富良野町の丘に建つ、土の博物館「土の館」。この博物館が北海道遺産に選定されたことを機に、2005年、町の有志による支援団体が設立された。『土の館友の会』である。

会員は約60名。町議会議員や地元企業の経営者、役場や農協OBから主婦までと実に幅広いキャリアが揃う団体だ。彼らの活動は、「土の館」の運営を全面的に支援すること。訪れる観光客のガイドを務めたり、館で行われるイベントや催事の企画を主に受け持っている。

### この地を、先人の逞しさをいまに伝える語り部たち

1926(大正15)年、十勝岳の大噴火による泥流は、ここで農業を営む人々の家屋や田畑、そして

尊い命までもを一瞬にして呑み込んだ。鉱毒を含んだ土は富良野原野を埋め尽くし、そこには作物どころか、一本の草すら生えなかつたという。先人たちは何とか土を蘇らせようと、客土を繰り返し、最上部の現在の地層を作り上げた。

「土の館」には、縦4層にも及ぶ地層標本が展示されている。太古から続く原野の歴史を今に伝える、希少な展示資料だ。この地で生まれ育った会員たちの多くは、その当時の話をリアルに聞いて育った世代である。彼らの臨場感あふれる解説は、ここを訪れる観光客に深い感動を与える。十勝岳噴火から80年目となる2006年には、この「土の館」で記念行事が行われる予定だ。

### 体験学習の場として 新たな「コミュニティの場」として

遺産に選定されてからというもの、ここを訪れる人の数は、これまで

より約40%も増加した。貴重な経験のできる学習施設として、道外から研修旅行に訪れる学校や団体も増えているという。『友の会』結成直後には、静岡県東部少年の船に参加した中学生480名が来館。21名の会員たちが補助説明員として携わった。トラクターの試乗会などの体験研修には、会員たちのスキルが大活躍だ。

「団体来館者への案内支援は、館としてとてもありがたく感じています」と、話すのは「土の館」顧問の穂吉忠彦氏。2006年には、『友の会』の主催により、蓄音機を使ったSPレコード音楽会が開かれた。土の館は新たなコミュニティの場としても、活用の道が期待されている。

今後は、館内展示品に関する勉強会の開催や、案内支援の強化が目標。地域を愛する人々のジュエリーな思いは、上富良野の豊かな大地を潤している。